

年頭のあいさつ



下妻市長
菊池 博

ウイルス感染症の終息、ウクライナ情勢の一日も早い和平を願わずにはいられません。

引き続き、コロナ禍における各種対策事業、支援事業を継続し、本年も市民に寄り添った市政運営に努めてまいります。

【新庁舎完成予定】

あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、令和5年の新春を健やかに迎えのこと、心からお喜び申し上げますとともに、日頃より、市政各般にわたり、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年は3年ぶりに行動制限のない年末年始となりましたが、新型コロナウイルス感染症「第8波」の感染拡大が心配される中で、年越しとなりました。インフルエンザの流行の怖れもあることから、今後、市民生活へのさらなる影響が大変懸念されます。

また、ロシアによるウクライナ侵攻がもたらした混乱から原油価格や物価が高騰し、家計も大きな打撃を受けています。

こうした影響を受け、困難に直面する市民や事業者の支援のために、多くの支援事業を展開してまいりましたが、根本的な問題解決である、新型コロナナ

令和5年、新年度がスタートすると新庁舎が本格稼働いたします。おかげ様で、庁舎の整備工事は順調に進捗しており、5月の開庁が待たれるところです。

現在の本庁舎は昭和44年に、千代川庁舎は昭和53年に竣工したことから、それぞれ長い歴史に幕をおろすこととなります。新庁舎は、新たな防災拠点として環境に配慮した建物に生まれ変わる予定です。

さらに、新庁舎建設を契機に、デジタル社会へ対応するため、組織機構の整備を実施します。新たな行政課題に対し戦略的に各種事業に取り組めるよう、機能的かつ効率的な組織機構の整備を行うものです。

整備の内容については、デジタル技術を活用した行政改革と市民サービスの向上を一体的に進めていくためDX

推進課を設置し、また公民連携の手法を取り入れた市有資産の活用を推進していくため資産経営課を新設いたします。持続可能な都市経営の推進を図るとともに、市民ニーズに柔軟に対応できる組織を目指してまいります。

【選ばれるまちを目指して】

少子高齢化が進展し、人口減少が進むことは深刻な問題です。本市においても、人口減少に歯止めをかけるため「選ばれるまち」を目指し、新たな取り組みへの果敢なチャレンジが重要になると考えています。

取り組みの一つとして、本市ではグローバル化の急速な進展に対応するため豊かなコミュニケーション能力や異文化理解の精神を身につけ、さまざまな分野で活躍できる人材を育成するため、「英語教育のまちづくり」を合言葉に、英語教育の充実に努めています。

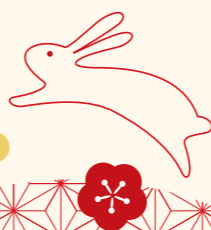
市立小中学校12校にALT(外国語指導助手)を配置し、加えて英語が堪能な英語教育コーディネーター、英語教育を専門とする学校教育指導員等を小学校に派遣し、外国語活動の授業をサポートできる仕組みを整えています。さらに、令和3年度には、英語を母国語とするアメリカ人を市の正職員として採用し、学校の教職員と共に英語教育の充実に向けた取り組みを支えています。

こうした取り組みでは、かつての英語の授業風景にあった、文法を覚える

ことや英訳、和訳をすることにこだわらず、主体的にコミュニケーションを図る能力を育むことを優先に考え、生きた英語に触れたり、実際にコミュニケーションを図ったりする体験の場を設定することを重視しています。現在の市立小中学校の英語の授業では、子どもたちが楽しそうに英語を使って発表をしたり、先生や友だちと英語でやり取りする姿を見ることができ

こうした成果は短い期間で得られるものではないことから、私が座右の銘として掲げている「積小為大」の教えのように、小さなこともおろそかにせず、今後も将来に向けてやるべきことを一つひとつ積み重ねていき、下妻で生まれ育った人が、下妻で幸せな人生を送ることができるよう、その実現に一層努めていきたいと考えています。施策の推進のためには、市民の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。本年も皆様とともに「住み続けたいまち」「選ばれるまち」の実現のために精一杯努力してまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げ、あいさつといたします。本年もどうぞよろしく願っています。



防災訓練

令和4年度下妻市総合防災訓練 高めよう！地域の防災力

11月27日、令和4年度下妻市総合防災訓練を下妻中学校グラウンドをメイン訓練会場として、また、下妻中、下妻・上妻・総上の各小学校の体育館を避難訓練会場として実施し、地域住民や関係機関の関係者ら約1000人が参加しました。

3年ぶりの開催となった訓練では、大規模災害が発生したと想定し、消防、警察、自衛隊による連携の確認、負傷者が発生したとされた現場での人命救助訓練やトリアージ訓練、ドローンを使った情報収集訓練や中学校屋上からの救出訓練、放水訓練、炊き出し訓練を実施しました。また、体験コーナーでは、来場した家族らが消火器を使った消火の訓練などを体験しました。



水消火器による消火体験を行う児童



消防・警察・自衛隊による情報収集訓練



消防隊員による屋上からの救助訓練



消防・医師会によるトリアージの実施訓練



消防署員の指導により放水訓練を行う参加者



自治区住民らによる段ボールベッドの作成訓練



自治区住民らによる搬送訓練



浮き輪などを要救助者に投げる体験をする児童



炊き出しを準備する自衛隊員



自衛隊のカレーライスを受け取る参加者

問 消防交通課 ☎43-2119 FAX 43-4214